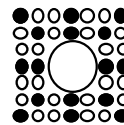


Newsletter of the British Council Japan Association

# BCJA Newsletter

No.5

March 31, 1996



## Newsletterの活発な御利用を

### BCJA会長 関谷 透

昨年は何かと暗い話題の多い年でした。1996は、日本にとって、また、世界にとっても明るい年になりますように祈らずにはられません。会員各位の益々のご活躍とともに、ここに祈念致すしだいで。

British Council および BCJA に関する今年の話の一つとしては駐日英国大使の交代が挙げられます。Sir John Boyd の後任として、今年から Mr. David Wright が大使に着任されました。Wright さんはお若く、日本語も堪能で、日本文化についても造詣が深いとお聞きしております。British Council, Director の Mr. Mike Barrett と共に、我々の活動の良き理解者となって頂けるものと期待を寄せております。話は少し先になりますが、今年度の Annual General Meeting ならびに Annual Reception は、できれば、また英国大使館で11月末に開催したいと思っております。(今のところ11月22日を第一候補日として話の調整を進めて頂いております。)多数の皆様のご出席を期待しております。

さて、お手元にお送りしております BCJA の Newsletter も、94年3月に第1号が発行されて以来今回で第5号となりました。内容も充実し読み応えのある号が続いており、BCJA committee member の中で、特にこの発行に対してご尽力頂きました安藤正人元編集委員、および、引き続きこれからも一層のご尽力をお願いしなくてはならない平孝臣編集委員に心より感謝申し上げます。しかし、残念ながら最近このNewsletterに投稿して戴く原稿やお便りの数が急激に減少してきました。BCJA 員会でも、会員各位にもっと積極的に Newsletter を利用して頂くための方策を練っておりますが、皆様のご協力も仰ぎたいと思っております。

既に多くの諸先輩から、留学時代の思い出や貴重な体験をお寄せいただきましたが、らに多数の会員の方々から、我々が共有しうるこの素晴らしい話題に関する原稿をお送り頂きたいと思っております。これに加え、皆様の現在の状況および BCJA に対するご希望などをお知らせ頂き、情報交換の場として利用頂けれ

ば、Newsletter もさらに充実したものになっていくと確信致します。編集部と致しましては、floppy disc でお送り頂くのが一番有難いのですが、勿論、原稿用紙でお送り下さっても結構です。更には、お葉書による短いお便りも大歓迎です。この Newsletter が、会員各位の重要な情報交換の場として未永くご利用いただけるよう、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

## Cinderella Time - Double-decker"223"

中村高遠

1995年、読売ジャイアンツの長島監督が"メイク ドラマ"なる名言(?)を残した。我々家族の"メイク ドラマ"は9年前に遡る。その主人公は秋になり、家の前の木の枝が落ちるとそっと恥ずかしそうに赤い顔をして我々の家を遠くから垣間みるようにゆっくりと通り過ぎてゆく。その名は"223"。Metropolitan Lineの Uxbridge Station を経由して Ruislip と Heathrow の間を走る Double-decker である。

London に着いた翌日、早速家族で日用品を揃えるために町へ出かけようと近くのバス停まで行くと、お年寄り夫婦に出会った。その方達もちょうど Uxbridge の High Street に向かう途中だという。"時間の当てにならないバスより歩いていったほうが早い"の忠告に従って一緒に歩き出した。けれどゆっくり歩いているようで速いこと速いことアツという間に離れてしまった。暫くするこちらを振り返り、"ここを曲がれ"の合図。老夫婦の優しさに感激し、足の長さの違いを痛感。

その帰り道、Tesco の前に"223"が停まっているのを見て、急いで飛び乗った。バスは走り出すと、すぐ2,3の roundabout を回ってからただ黙々と走るだけである。歩いて来たときの景色が違う。不安になって近くに座っている人に聞くと、方向が反対。取り合えず、次で降りようとベルを押す。降りたところは偶然にもこれから仕事をする Brunel University の前。"How lucky!" 驚くやら、ほっとするやら。

翌週、子供と二人でバス停にいと、町まで歩く人が通り過ぎてゆく。20代の若い女性が私たちにニコッ

と微笑んで通り過ぎる。知り合いでないのに何故？狐につつまれたような不思議な気持ち。今度は50過ぎの女性がまたニコッ。何人かが通り過ぎて、やっとそれが挨拶であることが分かった。それからはこちらからニコッ。毎朝、清々しい気分。

ある朝、"Foreigner, Foreigner..." 小声でそう言いながらバス停を通り過ぎるGrammar Schoolの生徒の声。誰のことか分からずに周りを見回すと、どうやら自分のことらしい。なるほど私は外人か。

血圧が高く、体調が思わしくなく、新幹線のホームで姉妹と別れるときには人買いにでも連れ去られるように泣き、英国行きを不安がっていた家内はLondonの空気が合ったと見えてIckenhamに住み始めてすぐ元気になった。頭痛がなくなったそうである。そんな彼女が数カ月してから美容室に行きたいと言い出した。ところがお隣の方は髪を長くしており、美容室には縁がないという。それで思い切っいつもバス停で出会う若い女性にお願いしてみた。微笑みながらご自分のいつも利用しているところにAppointしてくださることを快諾。その晩、OKの電話。驚いたことに当日一緒に行ってくださいとのこと。約束の土曜の朝、バス停で待ち合わせ、"223"に乗ってIckenham VillageにあるHair Dresserに向かった。そこでさらに驚かされた。"待っているのは退屈でしょうから、Villageの中を案内してあげる"と私に。"Surprise. Surprise....." 帰り際、年齢が20歳であると聞いて家内と顔を見合わせてまたびっくり。

300年ぶりというGaleでWindsor城の周りをはじめあちらこちらの木が倒れた日。テレビでは朝早くから"危険だから仕事に行かないように"と繰り返していた。ところがこちらは台風の通り道に住む人間。朝の風の強さからもう大丈夫とばかり、バス停に向かった。暫く待ったが、バスが来ない。そんなとき一台の真っ赤な車が目の前に停まった。"どちらに行くんですか"と尋ねられて"Brunelまで"というのと、"通り道だから乗せていってあげましょう"のやさしい一言。トラブルの少ない日本車がお気に入り、その日本人がボツンといるのが見えたので停まったとのこと。大学に着いたところは風も弱くなっていて一安心。ところが何とChemistry Departmentの扉は鍵が閉まっていて無人の様子。長い間に身にしみついた働き蜂の習性がでたことを反省。

冬のある日、いつも赤い顔を覗かせる"223"がいつまで待っても見えない。諦めて子供と一緒にUxbridge Stationへ。ところが動いているバスは一台もない。NHSに対する支援ストライキだから、一日中バスは動かないという。"どうしようか。健ちゃん"。結局、とぼとぼと重い足を引きずって来た道を引き返して家に戻った。

Uxbridge Stationの前でときどきバスが長く停まる。聞けば"Change Driver"だという。Driverが降りて乗客の乗ったバスに外から鍵を掛ける。暫くすると遠くから、交代の人がゆっくりと歩いてくる。決して誰も文句を言わない。じっと待っている。ときには渋滞でRuislip

行きのバスが2台連なることもある。そんなときには後ろのバスの乗客は前の車に移動させられ、1台はChancelとなる。なんと気長でのんびりであろうか。

ケニヤのナイロビで警察官をしていたという老人。会うといつも"ご家族は元気ですか"と声をかけてくれた。はじめて出会ったときに"どうしてBritish Councilが日本人にGrantsをあげるのか"と不機嫌だった女性。昔、ビルマで従軍看護婦の経験があるという。時間通りに来ない"223"。木立の間から見える様子から"赤鬼"のあだ名を付けた我が子。そんな思い出一杯の赤ら顔のDouble-deckerも1992年に英国を訪れたときにはその姿を消していた。家に戻るときDriverに"Swakeleys, Warren Road near Uxbridge roundabout, please."と説明していた家の近くのUxbridge roundaboutもなくなった。渋滞解消のために立体交差にしたからだ。Heathrowからは未確認飛行物体(UFO)のような"U4"なるMini-Busが"223"に替わり、一抹の寂しさを禁じ得ない。また、いつか復活してほしい気もするが、イチロー選手のように"変わなきゃ"という思いもする。

(NAKAMURA Takato, 静岡大学工学部, Brunel University, 1987-88, E-mail: tctnaka@eng.shizuoka.ac.jp)

## BLDSCサービスの料金が安くなりました

日本国内で入手不可能な文献をBritish Library Document Supply Centre (英国図書館文献供給センター)を通じて借り出しあるいはフォトコピーの形で入手することができます。この度、1995年10月1日申込分からBLDSCのサービス料金が下記のように大幅に改定されました。

ブックローン(1冊) 4800円 (旧 6300円)  
フォトコピー・クーポン 1000円 (旧 1500円)

この改訂は日本におけるBLDSCサービスの一層の利用を考慮してBLDSCが決定したものです。BLDSCへのリクエストは25年前揃には10万件程度であったものが、今日では300万件にもなり、これは年々約5%の増加をみたこととなります。因みに1995年7月現在のBLDSCコレクションはつぎのとおりです。

Journals	247000	Books	2998000
US theses	451000	UK theses	112000
Conference Proceedings			335000
Reports	4350000		

お問い合わせはブリティッシュ・カウンシル図書館まで  
Tel 03-3235-8031 Fax 03-3235-8059  
open Mon-Fri, 10:00-20:00

InternetでBritish Councilへ

最近、書店には所狭しとInternetの本が並んでおりま

す。た、テレビや新聞でもInternetが話題にならない日はないくらいです。中には"Internet何だ"などとお思いの方もおられるかもしれませんが、しかし、そのInternetにBritish CouncilのHome pageが開かれております。ご存じの方には退屈かもしれませんが、まだご利用なさっていない方のために簡単にご紹介します。

手順は極めて簡単です。まず、InternetのHome pageを開くことのできるSoftwareを立ち上げると(例えばNetscapeというSoftwareの場合、Net Searchというボタンをクリックすると)、“Search”と記されたKey wordで検索するboxあります。これはKey wordから直接Home pageに辿りつく便利な玉手箱のようなものです。ですから、そこに"British Council"とタイプして<RETRUN>します。それだけで見覚えのあるLogo Markの付いたThe British Council Corporate Home Pageが画面に現れます。もちろんアドレスが分かっているならばそれを使ってもかまいません。その場合、現在開いているHome pageのアドレスが画面上に表示されているはずで、それを

<http://www.open.gov.uk/bc/bcchom01.html>

と修正して<RETRUN>します。同じHome pageが開きます。あとは好きなところをマウスでクリックするだけ、自由に知りたい情報を見ることが出来ます。Tokyo OfficeのHome pageを開くにはつぎのアドレスを使います。

<http://www.open.gov.uk/bc/jpnhom01.html>

残念ながらHome pageには"under development"と書かれていますので、もう少し待たなければならないようです。皆様も少しお時間に余裕ができたとき一度お話しになっては如何でしょうか。Home pageについては英国の大学のほうが日本よりも、充実しているような気がします。大学全体の情報を知りたい。相手のE-mail addressを知りたい。講義に使えるような教材を誰か提供していないか。等々。いろいろなアイデアが膨らむかもしれません。

中村高遠 (E-mail: tctnaka@eng.shizuoka.ac.jp)

InternetのUK Government Information Serviceではイギリスの各種の行政機関に関する満載されています。ここからたどりますと英国科学博物館の展示内容を閲覧することも可能です。

<http://www.open.gov.uk/>

また、他にインターネットにつきましてなにか有用な情報がありましたら編集部までご連絡下さい。

平 孝臣 (E-mail: ttaira@nij.twmc.ac.jp)

## 日英協会のご紹介

BCJAは主としてBritish Council Scholarshipの経験者を中心とした学術的色彩の濃いメンバーによって構成されていますが、経済や文化全般の幅広い日英交流の

場として日英協会というものがあります。日英協会は全国各地に設立されており活発な活動が行われています。英国での生活を経験され、英国人の考え方をご存じのBCJA会員の皆様が入会されることを期待いたします。入会方法などにつきましては最寄りの日英協会までご連絡下さい。以下にリストをあげさせていただきます。日英協会は東京が中心になっているわけではなく、各地の日英協会間にはリンクはありません。また、設立はまったく自由なため英国大使館あるいはBritish Councilにお知らせいただいている協会のみをリストいたしました。このためすべてを網羅していないかもしれませんが、ご容赦ください。

### 旭川日英協会

〒070 旭川市八条6左10 森山病院企画広報室内  
tel:0166-22-4151 fax:0166-26-5798

### 愛媛日英協会

〒790-91 松山市南堀端1 伊豫銀行秘書室  
tel:0899-41-1141 fax:0899-31-0201

### 福岡日英協会

〒812 福岡市博多区博多駅前1-3-6  
西日本銀行国際財団気付  
tel:092-476-2154 fax:092-476-2619

### 福井日英協会

〒910-91 福井市順化1-1-1 福井銀行秘書室  
tel:0776-25-8018 fax:0776-21-9546

### 北海道日英協会

〒060 札幌市北区13条西8  
北海道大学工学部教務室 早瀬様気付  
tel:011-716-2111 fax:

### 広島日英協会

〒730 広島市中区紙屋町1-3-8  
広島銀行頭取秘書室気付  
tel:082-247-5151 fax:082-240-5759

### 岩手日英協会

〒020 盛岡市愛宕町11-10-408 鈴木充様方  
tel:0196-51-2117 fax:0196-23-8870

### 石川日英協会

〒920 金沢市上柿木畠2-4 早川芳子様方  
tel:0762-63-0762 fax:0762-63-0762

### 関西日英協会

〒541 大阪市東区伏見町4-10 三和銀行国際部  
tel:06-206-8432 fax:06-229-1066

### 香川日英協会

〒760-91 高松市桜町1-6-4 百十四銀行国際部内  
tel:0878-36-2151 fax:0878-36-2158

### 鹿児島日英協会

〒892 鹿児島市東千石町17-1 金海道ビル3F  
ロンドンハウス内  
tel:0992-25-9556 fax:0992-57-6886

### 静岡日英協会

〒424 清水市入船町11-1 鈴与(株) 秘書課内  
tel:0543-54-3015 fax:0543-54-1065

### 東北日英協会

〒980 仙台市片平2-1-1 東北大学金属材料研究所  
tel:0222-27-6200 fax:  
函館日英協会  
〒040 函館市元町33-14 イギリス領事館内  
函館観光協会気付  
tel:0138-27-3535 fax:0138-27-6775  
熊本日英協会  
〒860 熊本市上通町2-33 熊本日々新聞社事業局内  
tel:096-327-3044 fax:096-359-7866  
日英協会  
〒100 千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル428号室  
tel:03-3211-8027 fax:03-3215-5174

になることは必至でしょう。時候の挨拶のない用件だけの内容を味気ないものとするか「君子の交わり」とみなすか・・・いずれにせよ時代は急速な勢いで動いています。

東京女子医科大学 脳神経センター - 脳神経外科  
平 孝臣

## 編集部からのお知らせ

E-mailによる原稿を歓迎します。アドレスは  
ttaira@nij.twmc.ac.jp

でsubjectの欄にBCJAと記入しお送り下さい。従来のフロッピーと原稿でも、もちろんかまいませんが、E-mailが最も迅速かつ正確に処理できますので編集部としましては助かります。またE-mail addressをお持ちの方はお知らせ下さい。将来的には会員リストにE-mail addressを記載するようになると思います。

## お知らせ

新しい駐日大使としてMr David Wrightが就任され、BCJAのHonary Patronとなりました。

また、2月1日に行われました委員会にて関谷 透会長がもう1年会長として務められることが内定いたしました。また、この2年間Vice ChairmanおよびNewsletterの編集長を務められた安藤正人先生が海外留学のため、新たなVice Chairmanとして中村高遠先生(静岡大学工学部)が推薦されました。Newsletterの編集長は平 孝臣がさせていただきます。以上は今年の総会でご承認をいただいたうえで最終決定させていただく予定です。

## 編集後記

2年間編集長を務められた安藤正人先生に代わりまして編集を担当させていただくことになりました。この2年間順調に原稿が集まり、次号に回さざるをえないこともありましたが、今回はなかなか記事が集まらず苦労しております。BCJAの活動の柱としてのNewsletterとなりますよう頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

編集の方ははじめは原稿をOCRという機械で読み込む方法をとっていましたが、最近ではE-mailでお送りいただけることもありこの2年間の時代の変化に驚いています。かつての「手紙で失礼いたします」というの序文が最近では「Faxで失礼いたします」という語に変化し、この言葉さえも最近では使われなくなるほどFaxが日常化しています。この先数年でE-mailがFaxのよう